

検査と臨床から見るIgG4測定

— 院内検査化の取り組みと臨床診断の最前線 —

オンデマンド配信のお知らせ

Zoomウェビナーを利用したオンライン開催（事前登録制）

配信期間

～2026年4月27日（月）

座長

柳原 克紀 先生

長崎大学 医学部 臨床検査医学講座 教授

演者

小澤 栄介 先生

長崎大学病院 消化器内科 医学博士 講師

浜口 拓郎 先生

久留米大学病院 臨床検査部 副主任

申込方法

右のQRからお申込みをお願いいたします。
(Zoomウェビナー登録ページ)



◆ 登録ページへのリンクは弊社HP(<https://nittobo-nmd.co.jp/>)にも掲載しております。

検査と臨床から見るIgG4測定 — 院内検査化の取り組みと臨床診断の最前線 —

座長

柳原 克紀 先生

長崎大学 医学部 臨床検査医学講座 教授

Part 1

IgG4測定の院内化：導入の背景から検査体制構築まで

浜口 拓郎 先生

久留米大学病院 臨床検査部 副主任

当院では、2024年6月よりこれまで外注していたIgG4測定を院内検査として導入し、運用を開始しました。本講演では、導入に至った背景や準備過程、検査体制の構築について紹介します。導入後は特に外来での検査件数が増加しており、臨床現場での需要拡大が確認されました。今後はTAT短縮による効果や臨床的有用性についての検討を進める予定です。本発表が、同様の検査導入を検討されている施設の参考となれば幸いです。

Part 2

胆膵疾患診療における血清IgG4値測定の実際

小澤 栄介 先生

長崎大学病院 消化器内科 医学博士 講師

消化器領域において、血清IgG4値は胆膵疾患、特に自己免疫性膵炎およびIgG4関連硬化性胆管炎の診断や治療効果の評価に広く利用されています。実際の診療では、血清IgG4値の上昇は自己免疫性膵炎の診断の重要な手がかりとなりますが、膵癌や慢性膵炎など、他疾患でも上昇がみられるため、画像診断や臨床症状とあわせて総合的に評価することが求められます。今回の講演では消化器疾患の診療における血清IgG4値測定の実際に関して解説します。